

学校教育目標	心豊かで ねばり強く 正しく たくましく社会を生き抜く生徒を育成する		
a ミッション	小中連携教育の充実による系統的で魅力ある教育の実現	aビジョン	〇ワクワクする学校 〇成長し続ける学校 〇規律と温もりのある学校

評価計画					自己評価					学校関係者評価			改善計画		
	b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値	8月	1月	h 達成度	i 評価	j 結果と課題の説明	k 二次評価			l コメント	m 改善案
						g 達成値	g 達成値				イ	ロ	ハ		
資質・能力の育成	誰一人取り残さない学びの保障をするために、授業改善を進め、生徒の基礎的・基本的な学力の定着と主体的な学びを進める	ユニバーサルデザインの視点を生かした授業づくりを通して、生徒が「分かる」「できた」と感じられ、意欲的・主体的に学習に取り組む態度の育成をはかる。	①環境づくり ・意欲や成長を促す声かけ ・生徒の言動を価値付ける声かけ ②人間関係づくり ・考えの交流・共有の場の設定 ③授業づくり ・ねらいの明確化と流れの可視化 ・学ぶ必然性のある課題設定 ・生徒の実態に合わせた主体性を引き出す工夫	①②③生徒アンケート 「授業では、挑戦と失敗を繰り返しながら、問いや課題の解決に取り組んでいる。」の項目のスコア平均値（5段階）	3.0	3.9		130.0%	A	どの教科でもユニバーサルデザインの視点とした授業改善（ねらい・授業の流れ・意図的な声かけ）に取り組むことができた。また、ユニバーサルデザインを視点とした授業実践交流を通して、取組を共有することで、生徒がよりわかりやすくなるように授業の工夫を考えることができた。 特別活動において、行事と連動した話し合い活動を取り入れたり、日々の授業において考えの交流や共有の場の設定を設定することができた。 アンケートの結果から、話し合いや発表をしやすい雰囲気があると感じていたり、必要な仲間と協力しながら学んでいると感じたりしているものの、1、2年生において、積極的に自分の意見を他の生徒に伝えることに課題があるので、失敗しても大丈夫だと思えるような人間関係づくりや授業づくりを視点に授業改善を行う必要がある。また、興味をもたせる課題設定の工夫も必要である。	7			全員がわかりあえるよう日々創意工夫されていることがわかります。 自由意見が言える環境づくり。 生徒の様子から学校の取組は効果が出てきているでしょう。小テストの平均通過は上がらないといけない。今のままでは、努力はしたが結果がついていないことになる。 ユニバーサルデザインの視点を生かした授業づくりはとても素晴らしいです。 失敗を恐れず恥ずかしがらずわからないことをわからないと言える環境が整うと自己肯定感を持つ生徒が増えるのではないかと。 誰一人取り残さない学びの保証をするために、尽力いただいていることに感謝します。 8月が目標値を大きく達成しており、日頃の取組の成果が出ているものと思われます。	話し合いのルールを生徒自身に考えさせ、それを意識させた話し合い活動を行ったり、合意形成の仕方を学ぶ場を設定したりすることで、安全・安心な集団づくりを実現する。 ほめたり、結果だけでなく過程も認めたりするなど学習や活動への意欲を持続させるための手立てに着目した授業改善を進める。 実践交流をし、どのような実践をしているかの交流をした上で実際に授業を見る授業交流の流れを継続し、お互いに学び合う場を設定する。
		家庭学習の習慣化と、個別最適な学びや協働的な学びを進め、基礎的な知識・技能を定着させる。	①基礎基本の徹底を目的とした「がんばり」学習の充実 ②「がんばり」と連動した小テストの実施 ③生徒の実態分析に基づく協働的な学びの工夫	①②小テストの平均通過率 ③生徒アンケート「授業では、自分が必要な時に、必要な仲間と協力しながら学んでいる」のスコア平均値（5段階）	80%	3.0	①② 64.8% ③ 4.2		①② 71.4% ③ 140%	B	「がんばり」を通して、授業理解度の確認や基本的な知識の定着を図ることができた。しかし、家庭学習の定着や提出状況に課題があり、取り組み方への指導の工夫が必要である。繰り返しのルーティン化やタブレット端末の活用等、意欲を引き出し、かつ継続させて達成感につなげるよう改善する必要がある。 小テストの平均通過率はほとんどの教科で目標値を下回っている。学力調査やテストから生徒の実態の分析を丁寧に行う必要がある。 生徒の必要感に応じた補充学習や自習教室の実施をすることができた。	7			小テストの目標値を下回っているという課題に対して、即補充・自習教室の実施をされていることは大変良いと思います。 テストの繰り返しの見直し。 家庭学習の難しい生徒に自習教室を開放していることはとても良いと思います。普段からいつでも使用できる様にしてはどうでしょうか。 自習学習の取組は良いですね。家庭学習の習慣化が定着できるように保護者との連携が密に取れる方法はないでしょうか。 小テストの平均通過率がほとんどの教科で下回っていることが残念に思います。コードモン等で親と情報共有することもできると 생각합니다。（毎週何曜日実施とか）
生徒指導の充実	生徒の主体的な絆づくりを推進し、積極的な生徒指導を進め、安全・安心な温かい人間関係を構築し、生徒の「本気」を引き出し、豊かな心を育てる	教育相談、道徳教育を充実させ、生徒に寄り添いねばり強く心に響く生徒指導に取り組み、行きたい学校づくりを進める。	①学年担当・生徒指導主事・教育相談コーディネーターで細かな情報共有 ②月1回の生徒アンケートの実施 ③生徒が主体となる話し合いや協働的な活動を通じて成功体験や達成感を感じられる機会を増やす。	①②不登校傾向・不登校生徒数 ③生徒アンケート 「学校へ行くのは楽しい」の項目 肯定的評価	前年度－5人 90%	7月現在 前年度－3人 80.7%		①160% ③89.7%	A	不登校生徒に継続的な家庭訪問と保護者連携を行った。また、全員面談やSC面談、生活アンケートなどを実施して未然防止に努めた。 学校へ行くのが楽しいと感じていない生徒や不登校が定着している生徒にキャリアを意識する機会を増やす必要がある。	7			不断の努力に頭が下がります。不登校生徒がグンと減っているのは喜ばしいことです。 不登校の生徒が話し易い雰囲気づくり。キャリア教育の一環として小学校の寺子屋倶楽部への参加（1チーム10人程度）。 地域でも、子ども達の態度は良くなっていると思います。この調子で取り組んでほしい。 不登校の生徒の数は減っているが、長期で学校に来れない生徒の家庭との連携が取れているのかがわからない。 不登校生徒の対応として粘り強く家庭訪問を行ってくださり、一人でも不登校の子が減ればと思います。	全ての生徒が不登校になるかもしれないという危機感を持ち、小さな変化に気がつける態度の育成と教育相談体制の充実を図る。 魅力ある教育活動と安全安心な学校づくりのため、生徒指導部や教育相談部で必要な手立てを考える。
		学校行事や生徒会活動など体験学習（特別活動）を充実させ、生徒の「本気」を引き出し自己指導能力を育成するために、集団づくりを進める。	①生徒が自分たちで考え、全校生徒がよりよい学校作りに携わることができる行事計画や生徒会活動を行う。 ②生徒の意見を取り入れ、生徒主体の学校づくりを行い、本気を引き出す。	①②生徒評価による「学校行事に本気で取り組んでいます。」の項目 肯定的評価	95%	96.4%		101.0%	A	ええじゃんSANSА・がりや体育大会を生徒主体の活動として取り組むことができた。また、生徒の頑張りや思いを廊下に掲示して、先輩と後輩、リーダーとフォロワーの思いを共有した。掲示だけでなく、面と向かって直接思いを伝え合えるよう、特別活動の機会を通じて、安全・安心な風土を築き、自分達で学校をよりよくしていく気持ちを育成する必要がある。	7			生徒の思いを十分引き出し尊重することが「金賞」につながったと思います。 自主性や協調性を育む上で重要。 ええじゃんnSANSА・がり、体育大会など本気で取り組む生徒の力が学力に反映されるような環境が整えられする方法はないか。 今年は、ええじゃんSANSА・がりで金賞など子どもたちの頑張りがあったのが良かったです。	行事での取組みに限らず、普段の学校生活からリーダーシップを発揮する生徒や、思いやりのもった行動を評価することで、何事にも安心して積極的に取り組める風土を築く。 生徒同士の思いの共有を掲示だけでなく直接伝え合える活動を増やす。
吉中太鼓	生徒同士、保護者や地域、教職員と響き合う	吉中太鼓で地域や学校、自分に誇りを持たせ、日常生活や将来に繋がる心を育てるとともに、感謝の気持ちを行動で表現できる生徒を育成する。	①太鼓取組の中で、礼儀作法や吉中太鼓の歴史や伝統を継承させることの重要性を理解させる。 ②自分たちで課題を解決する場面を設定することで、生徒の主体性や人前で堂々と自己を表現する力を身に付けさせる。	①②生徒評価による「行事やイベントで太鼓を披露したいですか。」の項目 肯定的評価	90%	1年 72.7% 2年 70.0% 3年 83.9% 全体 75.9%		84.3%	B	3年生は、太鼓の全体披露の場が2回あり、他学年に比べると生徒アンケートの値が高くなった。しかし、3年生の中にも、太鼓への積極性に差がある。太鼓が苦手な生徒でも、達成感を感じられる場面を増やす必要がある。また、太鼓を通じて地域へ貢献する気持ちや感謝の気持ちを育むために、地域の方にお世話になっていること等について教員が生徒に語る機会を設ける必要がある。1・2年生は、発表の機会が無いため自分達が披露する姿を想像しにくいと考えられる。	7			太鼓の歴史を積み上げより良いものになっていると感じます。 団体行動の貴重な体験であり、社会生活への重要な取組み。 吉中太鼓が生徒指導の幹になっているのがよくわかる。ただ、偏りすぎないようにバランスには気を付けてほしい。 太鼓を通して人前で堂々とできる。達成感を感じられるなど素晴らしい経験ができていると思います。今後に生かされると思います。 生徒数が減っていることで、吉中太鼓の熱量が低い生徒の比率があがっているのではないかと。指導が難しくなります。 太鼓の活動も中止になることもなくお披露目できていることはいい事だと思いますが、その分、コロナ中と比べ、先生方の負担が増えているように感じます。	3年生は青少年健全育成大会に向けて、これまでの取組を振り返る機会を設け、目標を決めさせ最後までやりきれるようにする。 1・2年生は、披露の機会は少ないが、3年生の演奏を見せたり、聴いたりすることで、自分達が3年生になってどんな太鼓を打ちたいかを考えさせていきたい。
働き方改革	職員のワークライフバランスが確立している	個業とならないよう、チームで動き、職員がお互いに頼みやすい職場づくりを進めるとともに、長時間労働を解消する。	①日々の情報共有を密にし、学校経営会議、分掌会、学年会等を充実させることを通して、主任主事を中心としてチームで動く。 ②衛生懇話会において、業務改善の具体的方法について議論し、業務改善を推進する。（月1回）	①②市教委実施の働き方改革アンケートの質問項目「教職員間で業務の手助けなど、互いに頼みやすい雰囲気がある」の肯定的評価	昨年度比+5ポイント	昨年度比±0		95.2%	B	市教委実施の働き方改革アンケートの質問項目において若干の変更があり「私は、教職員間で業務の手助けなど、互いに頼みやすい雰囲気がある感じている」となった。その肯定的評価は、昨年度第1回と同じ数値であった。主任主事を中心としてチームで動くことや、業務改善に向けた議論も実施したが、人事異動による職員の入れ替わりも多かったこともあり、大きな改善には至っていない。	7			お互いを思いやる風土が根付いていることで、新任の方も心地よく活動できていると思います。 教員と事務職員は学校経営の両輪であり、情報共有及び協力関係の構築が必要。 教職員間の信頼関係が出来ていて素晴らしいと思います。 市教委のアンケートのようにお互いに頼みやすい状況になるには、教職員の人数が足りていないのではないかと。 個業とならずチームで互いに助け合い、長時間労働にならないように期待しております。 先生同士の連携も大事です。クラス運営協議会でできることはお手伝いさせていただきます。	主任主事を中心として各分掌の役割分担の見直しや業務の進捗管理を徹底することで、チームで働く意識の醸成を図る。 次年度の行事予定の見直しを全教職員の意見を入れながら実施することで、お思いを受け止めてもらえているという実感や、日々の業務が改善されるという実感を持たせる。

【自己評価 評価】

A：100≦（目標達成）
C：60≦（もう少し）<80

B：80≦（ほぼ達成）<100
D：（できていない）<60

【外部評価】

イ：自己評価は適正である。ロ：自己評価は適正でない。
ハ：わからない。